

7). なお, Grimelius 染色は弱陽性を示すにすぎない.

参考文献

- 1) Chandler, F. W., Kaplan, W., Ajello, L.: Cryptococcosis. In: A Colour Atlas and Textbook of the Histopathology of Mycotic Diseases (eds. Chandler, F. W., Kaplan, W., Ajello, L.), Wolfe

Medical Publications, London, 1980, 54-58

- 2) 伊藤 誠, 発地雅夫: クリプトコッカス症の病理. 病理と臨床 1991, 9: 1288-1295
- 3) 三上芳喜, 真鍋俊明: 肺クリプトコッカス症. 肺腫瘍性・限局性病変, 生検診断の進め方・考え方 (真鍋俊明, 深山正久編), 文光堂, 東京, 1999, 72
- 4) 堤 寛: 肺感染症の病理. 呼吸 1998, 17: 778-793

■ケニア事情

1) ケニアという国

- ・赤道直下の人類発祥の地. 1964年に英国より独立. 公用語: 英語・スワヒリ語.
- ・首都: ナイロビ (標高 1,800 m), 人口: 2,500 万人, 面積: 日本の 1.6 倍.
- ・大統領: 2代目モイ.
- ・部族: キクユ族, ルオー族, マサイ族など計 52 の複合民族国家.
- ・無用の部族間対立, 賄賂の横行, 援助慣れ, 高い失業率, 貧富の差, 街のスラム化, 先進性と後進性のアンバランスな同居——. 平均寿命 50 歳程度.
- ・教育: 8-4-4 制, 識字率は比較的高く 50% 程度? 電化率 10% 以下.
- ・主な対日輸出品: コーヒー, 茶, テラピア (ファミリーレストランで出される白身魚).
- ・日本の政府開発援助 (ODA) のアフリカにおける最重点対象国.

2) ケニアの医療事情

- ・医学部数=2 (日本=80), 医学部=5 年制, 学生数=1 学年 100 人.
- ・3 年間の“裸足の医者” (clinical officer: CO) 速成コースあり.
- ・病院: 州病院 provincial hospital, 地域病院 district/subdistrict hospital (医師 MD は州病院に集中, 地域病院には医師は 1 名のみ).
- ・医師の月給: 教授 15,000 ケニアシリング (Ksh), 研修医 8,000 Ksh (1 Ksh ≒ ¥1.6)
- ・医学生に対する国費貸与: たったの 5,000 Ksh/半年, 海賊版教科書=400 Ksh.
- ・健康保険制度なし. 初診料なし, 検査料 10 Ksh, 病理検査料 30 Ksh.
- ・ケニアアッタ国立病院カフェテリアの昼食 40

Ksh, コーラ 11 Ksh.

3) ケニアの感染症

- ・死因: 1 位 下痢症, 2 位 肺炎, 3 位 マラリア, 4 位 交通事故
- ・HIV 感染率: 一般供血者 10%, 売春婦 90%
- ・エイズの死因: 結核症がトップ, クリプトスポリジウムが第 2 位

問題となっている主な感染症

- ・下痢症: 病原大腸菌, サルモネラ, キャンピロバクタ, 赤痢, ロタウイルス
- ・肺炎: 大葉性肺炎, 結核, 麻疹, マイコプラズマ
- ・その他の細菌感染症: 流行性髄膜炎, 破傷風, 腸チフス, リウマチ熱, トラコーマ, らい, ブルーリ潰瘍
- ・真菌感染: マズラ足
- ・ウイルス感染: 黄熱, ポリオ, 水痘, 流行性耳下腺炎, A 型肝炎, B 型肝炎
- ・性病: エイズ, 梅毒, トリコモナス, ヒトパピローマウイルス
- ・原虫症: マラリア, リューシュマニア, トリパノソーマ, アメーバ赤痢, クリプトスポリジウム, イソスポーラ
- ・蠕虫: 回虫, 鉤虫, 鞭虫, 糞線虫, フィラリア, オンコセルカ, エキノコッカス, マンソン住血吸虫, ビルハルツ住血吸虫

ウイルスが原因 (誘因) となる腫瘍

- ・子宮頸癌: ヒトパピローマウイルス
- ・バーキットリンパ腫: エプシュタイン・バー (EB) ウイルス
- ・肝細胞癌: B 型肝炎ウイルス
- ・カポジ肉腫: HHV 8
- ・成人 T 細胞性白血病: HTLV-1